

## 平成 22 年度第 2 回北海道立図書館協議会会議概要

日 時：平成 22 年 11 月 30 日（火）

会 場：北海道立図書館 会議室

出席者：協議会委員 10 名、道立図書館職員 12 名

傍聴者：なし

### 議 事

- 1 会長及び副会長の選出について
- 2 平成 22 年度の活動状況について
- 3 北海道立図書館事業推進計画について
- 4 公共施設評価の検討状況について
- 5 その他

会議概要 （○～委員の発言 ・～道立図書館職員の発言）

#### 1 会長及び副会長の選出について

北海道立図書館協議会条例施行規則第 2 条第 2 項に基づき委員の互選により、会長には、河野委員、副会長には吉田委員が選出された。

#### 2 平成 22 年度の活動状況について

鈴木部長説明（資料：「平成 22 年度北海道立図書館要覧」）

- 北方資料の収集方法は。
  - ・ いろんな情報を聞きながら収集しており、古書店に行くこともある。
  - その他に、古いものだけでなく「今」暮らしに役立つ北海道関係の資料を集めている。
- 貴重な資料の購入を希望されることはあるか。
  - ・ 購入の希望はないが、所蔵している資料の価値を調べてほしいなどの依頼はある。
  - 古書店から購入する場合は、資料の内容・状態を確認した上で、購入している。

#### 3 北海道立図書館事業推進計画について

金山部長説明（資料：「北海道立図書館事業推進計画（平成 20 年度～平成 24 年度）」）

- 今、道立図書館の収納スペースの状況はどうか。
  - ・ あと 1、2 年で満杯の状況である。書庫増設の検討段階に入らなければいけないが、予算の問題もあるので、書庫増設というのは非常に厳しい。
- 長期的には、具体的に増設計画はあるか。
  - ・ 未定である。

- カウンター業務の一元化について、物理的には無理であると結論を出しているが、行動計画で引き続き検討するべきなのか。
    - ・ 今後は、カウンター業務の一元化ではなく、来館者サービスの向上という観点で何ができるのか検討する必要がある。
  - 子ども読書活動の支援について、過去に、子ども読書応援プロジェクトがあったが、コーディネーターの方の現在の活動は。
    - ・ 子ども読書応援プロジェクトは、道教委で進めていた。文科省の補助事業だったので、現在、子ども読書応援プロジェクト自体はないが、子ども読書応援団には、多くの人加入しており、年1回の会報を出している。コーディネーターは、2年間の経験を生かして、道内各地で活動している。道立図書館では、市町村活動支援事業等いろいろな形で引き続き行っており、子どもの読書活動はさらに強化する予定である。
  - 道立図書館では資料の除籍はしているか。
    - ・ 資料は一般の資料、北方資料、支援活動用資料の3種類に分かれている。市町村の図書館（室）の活性化等のために使われる支援活動用資料は、一定期間を経て、除籍している。一般資料と北方資料は永久保存が原則である。
    - ・ 将来に渡る北海道民の知的財産として、北海道で1冊は残したい。
  - 道立図書館ではない場所で古本市を開催したか。
    - ・ 昨年度、当館で古本市を開催したが、今年度は残った本（約1万冊）で、遠軽町、根室市、名寄市の図書館と共同開催した。来年度も3000冊程度残るので、3、4ヶ所で開催したい。
  - ホームページなどに載っているのか。
    - ・ 共同開催の願いを個々にして実施した。来年度の方法についてはまだ検討していない。
  - 道立図書館は映像資料もあるが、VHSはDVDに変換などしているか。
    - ・ 媒体変換はしていないが、いずれはそういった必要性が出てくるのかも知れない。
- 4 公共施設評価の検討状況について  
榎本部長説明（資料：「北海道立図書館における公共施設評価への対応等について」）
- 道教委として指定管理者の導入は難しいという姿勢が明確にされたということか。最終的な結論は来年度見られるということか。
    - ・ そのとおり。
  - 道議会予算委員会で、道立図書館のあり方について質問があり、諮問機関である図書館協議会の意見を聞きながら、様々な観点から総合的に検討を行うと答弁されている。今回の判断は、この色々な作業を終えて、道教委としての判断をしたということか。
    - ・ 予算委員会での質問は、6月中旬の時期であり、様々な観点から総合的に検討している段階であったので、あのような答弁になったと理解している。

○ 6月に議会、7月に協議会が開催され、今回このような判断をしたことは、議会で答弁した一連の作業を今終えてきており、協議会の意見も聞き、道教委として判断をしたということによろしいか。

・ そうである。

指定管理者の導入に関し、7月に図書館の考え方をまとめ、道教委で8月頃までに考え方をまとめる前提で進めたが、道教委としても様々な検討があり、22年度の公共施設評価のフォローアップに間に合わなかったため、次のフォローアップでは、道教委の考え方を反映させたい。あとは知事部局に了解してもらうだけなので、対外的にもこういった方針が決まったと報告できるよう、引き続き協議を進めていく。

○ 図書館や道教委の一定の作業は終え、あとは知事部局との協議ということか。

・ そうである。

できるだけ早くこの問題に結論を得て、執行体制の見直し、あるいは市町村支援の方に力を入れていきたい。

## 5. その他

(1) 法コンシェルジュ養成講座について

金山部長説明（資料：「法コンシェルジュ養成講座を開催します。」）

(2) インターネット活用術について

金山部長説明（資料：「インターネット活用術」）

(3) 北海道関係の雑誌記事検索の利便性について

鈴木部長説明（資料：「北海道で発行されている雑誌の記事が調べられます。」）

(4) 北方資料室40周年&国民読書年記念展展示資料について

鈴木部長説明（資料：「暮らしに、仕事に、図書館を」）

○ 道立図書館での活動の広報をどのように、どこに向けて発信しているか？

・ 様々だが、マスコミ、新聞社、場合によっては連絡する機関もあり、またホームページでも広報している。

○ 開拓記念館の活動が目立っている。学芸員が朝のNHK番組の情報コーナーを担当している。このように道立図書館も「図書館に来なければ、知っていなければ」ではなく、存在をアピールしてほしい。

・ 今年もイオンにコーナーを設けてPRしているが、まだまだアピールしたい。

○ 23年度の予算要求で、学校図書館環境改善事業とあるが、具体的にはどういったことを考えているか。

・ 今年度も子供読書活動支援の中で行っているが、職員を派遣し、市町村の教育委員会を通じ、市町村の学校図書館で整備が行き届かないところ、具体的にいうと本の配架の仕方、レイアウト、飾りつけ、展示の仕方などそういったことを具体的に助言する。

市町村の図書館、学校の担当の先生、地域によってはボランティアの方と当館の職員

を含めて、子供の読書を推進していくための具体的な学校図書館のリニューアルの手伝  
いする。そういったことを想定している。